

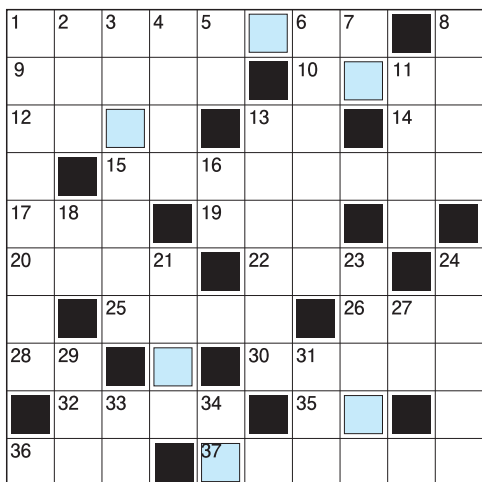
クロスワードタイム

春がやってきました。花粉もやってきました。昨年より多くなるという予報ですので、早めの対策を！メールでご応募いただいた中に、答えやお名前の無いものがあります。送信ボタンの前にもう一度ご確認を。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈呈します。

■×切:4月17日(金) ■宛先:mail → info@nikkenkyo.jp はがき → 〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3F 日建協クロスワード係

ヒント:

この時期に活躍する和風バンドです。



ヨコのカギ

- 申告納税制度の一つで、用紙が青色であることからこの名がつけました。
- 1978年、「狼なんか怖くない」でデビューしたアイドル歌手。
- 高貴な人。偉い人。皮肉の意味を込めて用いる場合が多い。
- 布や紙・木材などに、薬品・樹脂や水などの液体を浸して含ませること。
- 焼肉の定番、牛の舌。
- 思いもよらない失策。手落ち。へま。
- 卵黄・牛乳・砂糖、場合によりコーンスターチなどのでんぷんを加え、とろりとなるまで加熱した洋菓子用のソース。
- 「○○○にしても」「○○○に転んでも」「○○○付かず」。
- 実名を秘して仮につけた名前。
- 江戸時代に盛行した庶民的な絵画。
- 野球で、走者が塁から離れること。リード。
- 丑の刻を四つに分けた第三番目の時刻。
- エジプトの国歌の題名「○○○国」。
- ブドウ科の落葉性の蔓(つる)植物。
- 危機。重大局面。特に、経済上の危機。
- 雪で作った家(雪洞)。
- 2人で行うボードゲームの一種。チェス、シャンチーと並び世界三大棋類の一つ。
- 「ふじ」「陸奥」「千秋」など多くの品種がある果物。
- バスの停留所を英語で言うと?

タテのカギ

- 身近においてかわいがることを目的に飼う動物。
- 橋田壽賀子脚本の連続テレビ小説。
- 萩・紅葉・牡丹の3枚をそろえた花札の出来役の一つ。
- 「○○○○カー」「○○○○グレー」「○○○○シート」。
- 相撲の基本動作の一つ。
- シャーロック=ホームズを主人公とする推理小説で有名な英国の小説家・医師。
- 一定の領土とそこに住む人民からなり、主権による統治組織をもつ集団。
- 酒のしぼりかすの甘いもの。
- 支えること。支持・支援すること。
- カレー粉・たくあん漬などの着色料として用いる香辛料。
- 「○の爪」「○狩り」「はげ○」。
- 地球をめぐる衛星。太陽の光を受けて地上の夜を照らす。
- 人に対する親しみ・好意・謝意などを表すための、軽く頭を下げるしぐさ。
- めでたく、喜ぶべき事柄。また、それを喜び祝って行う行事。
- NEWSのメンバーである、手越祐也・増田貴久によるヴォーカルユニット「テゴマス」のデビューシングル。
- お祝いの言葉。祝詞。「新年の○○」。
- ちょっとしたことにも感情を動かされること。感じやすいこと。
- 「カレー○○○」「チキン○○○」「トルコ○○○」。
- 子の子。2世代下の子孫の総称。
- 馬のような体格とロバの頑丈さをもつ動物。

Vol.804クロスワード 正解と当選

答えは「ハツヒノデ(初日の出)」でした。



多数のご応募ありがとうございました。
次の当選者の方々にクオカードをお送りします。

河村正二(青木あすなろ)、山岡真由美(アサヌマ)、
高橋 玲、野島淳子、宮脇卓哉(安藤ハザマ)、
植村和美、国宇利浩、宮崎幹子(鴻池)、江口公一(五洋)、森山章代(佐藤)、
水崎隆志(銭高)、志波敬之(鉄建)、有馬広明(東鉄)、赤塚久美子、時田 学(東洋)、
利根 誠、埴 亨(戸田)、岡田真幸、七海遥観、富米野和佳、榎島 修(飛鳥)、
大森貴仁、中島政太郎、沼田政義、藤井寛之(西松)、二見一郎(JS)、松岡賀之(野村)、
田中一生(藤木)、川中恵美(三井住友)、角谷明俊(横河) <敬称略>

編集後記

3月になりました。3月は「弥生」といい、「草木がいよいよ生い茂る月」という意味だそうです。新芽が顔を出し、花が咲き始める時期ですね。皆さんは何に春の訪れを感じますか。

さて、今号では「休日の過ごし方」に関する国内外の記事を掲載しました。皆さん工夫して充実した休日を過ごしているなあと感じました。これから春が近づき暖かくなれば行動範囲も広くなり、さらにさまざまな休日の過ごし方ができるようになります。でも、お金も掛りますよね。ワーク・ライフ・バランスの実現には、やはり余暇に費やせるだけのゆとりある資金も重要だと思います。さあ、2015年賞金交渉が始まります。交渉状況を注目し、一致団結してがんばりましょう。

機関誌「Compass」は、これからもみなさんの声を反映しながら作成していきます。より多くのご意見をお待ちしています。今後ともよろしく願います。

もや 船い

ある日、息子が将棋をしようと言ってきた。聞けば小学校で流行っているとのこと。集中力と先読みが必要な将棋は当時1年生の息子には最適と、その日から進んで相手をした。一丁前に平手で挑んでくるが、駒と語り合った将棋の申し子をなめてもらっちゃ困る。何度負けても、時には泣きながら「もう1回」とせがむ息子の気の済むまで相手した。3ヶ月後、地元の小生将棋大会に出場した息子は並み居る上級生をねじふせ5連勝の快進撃をみせる。「天才1年生だ!」そんなひそひそ声に独りぼくそえむ凡人の私。なんともこそばゆい。もしかして息子は煌めく世界の住人か? その後6年生2人に2連敗であえなく予選敗退してしまったが、私の肚は決まった。この金の卵を世に送り出さねば。早速将棋教室の門を叩いた。大きな大会にも出場させた。そこで現実を思い知らされる。世の中にはかくも多くの天才将棋少年がいるものか。その後も色々な大会に出場するも世の中そんなに甘くなかった。毎日1問解くと誓った詰め将

棋本もいつしか部屋の隅で埃をかぶり、息子の将棋熱は親の興奮と一緒に冷めてしまったと思っていた。そんな息子は現在小学3年生。ちまたの子供と違わず、DSの妖怪ウォッチは飽きもせず3作目も欲しがり、U S Jのホラーナイトではゾンビが怖いと涙目で私にしがみつくビビり屋さんだ。さて肝心の将棋はというと、継続は力であり柔らかな頭は偉大であった。聞けば、詰め将棋本はとくに解いてしまっただけ最近では脳内将棋がブームだとのこと。「美濃から高美濃だ」と語られても既に話についていけない。そういえば最近「勝負しよう」と言われていない。もはや私から得るものはないということか。3年生の息子の背中を見て「大きくなったものよ」とちと早すぎやしないか。ともあれ将棋という礼儀を重んじる世界で揉まれるのは良いことだ。まだまだ先は長い。今は息子の背中を見守りながら、独り寂しく「月下の棋士」を読み返している。でも最近、駒の音が聞こえないんだよね。(月下の父)